



写真：被災地のガジアンテプ城（トルコ）

Contents

2023年度CODE基本方針.....1
特集：CODEに関わる若者たち.....2
2022年度事業報告、 2023年度事業計画.....6
プロジェクトレポート.....7
イベントレポート.....10
スタッフ活動記録.....13
会員・寄付者ご芳名.....14
活動へのご協力のお祝い.....16

2023年度CODE基本方針「次の20年に向けて、'当たり前'に挑む」

2022年度は、パキスタンの国土の1/3が水没した大洪水、死者5万7000人以上の甚大な被害を出したトルコ・シリア地震、ソマリア・エチオピアなどの大規模干ばつによる約30万人の深刻な飢餓、さらにロシア軍によるウクライナ侵攻など災害と紛争の1年であった。

CODEは、阪神・淡路大震災からの学びで「戦争は最大の災害である」と捉え、神戸市内に避難しているウクライナ人約40名に「MOTTAINAIやさい便」を届ける中で、一人ひとりの声を傾けてきた。故郷に残してきた家族を想いながら慣れない日本で暮らす人たちの声は、避難生活が長期化の様相が伺える中で個別かつ多様になっていった。故に、一人ひとりの声に耳を傾けることの大切さを改めて考えさせられた。

また、2022年はCODE未来基金の若者たちが、ウクライナやトルコ支援活動だけでなく、事務局全般の業務や「子守ボランティア」などの実践を重ねていった。母子避難してきた母親のストレス軽減のための「子守ボランティア」を通じて目の前の一人に寄り添い続けてきた。ウクライナやトルコ支援を通じて被災者の一人ひとりの声を聴く事や最後のひとりまでの大切さを実感したと若者たちは語る。

CODEが法人20年を迎えた今年、若者たちを中心に記念事業「20年先にあなたは何を伝えますか？」を開催した。6回にわたる議論の中で「足元を見直す」、「人々との接点」、「モヤモヤ」、「踏み出す勇気」というキーワードが若者自身から出てきた。普段から感じてる社会に対する違和感を語り合い、次の20年に向けて何を考え、行動しなければならぬのかをそれぞれが自分自身に問いかけた。そして、今後も引き続き

実践と議論を深めていくことも確認された。

トルコのボランティアが、被災地の惨状を憂いてこう語った。「これだけの人が亡くなったのは皆のせいでもある。皆が反省しないといけない」と。この震災であらわになった違法建築や政府の後手後手の対応が背景にあるが、政府の批判だけでなくその政府を支持した自分たちの市民一人ひとりの責任でもあるという意味だ。

他方、未来基金の一人の若者が、ある集いで男性に「危険な被災地に君たちのような経験もない人が行っても何の役にも立たない。被災地は君たちの勉強のためにあるのではない」と言われた。そしてその場に参加した大半の若者は、その男性の言う常識や正論に賛同したという。だが、若者たちの「誰かの役に立ちたい、何かをやりたい」というその一歩を社会が受け止めていくために、CODEには何ができるのか。

震災を機に社会や一人ひとりの中にあるこうした常識や正論と言われる、「当たり前」や無意識のうちに多数派に流れていく「空気」にどう向き合い、どう乗り越えていくのか、トルコや日本の若者に問いかけられた気がした。

悲しいことではあるが、世界では気候変動による災害や紛争など厳しい状況が今後も続いていこう。CODEは、激動の次の20年に向けて、阪神・淡路大震災から市民社会を担ってきた人々から受け継いできた理念を軸に今後も市民と共に災害支援に立ち向かっていく。同時に次の20年を担う若者たちのイニシアティブでこの社会の「当たり前」挑んでいく。

(CODE事務局長 吉橋雅道)

- 水色の枠線.....切れてはいけない要素(文字やロゴ等)をいれる範囲
- ピンクの枠線...仕上りのサイズ
- みどりの枠線...フチなし印刷にする場合、背景を伸ばす範囲

★★★ PDFに変換して入稿される場合 ★★★
「表示」>「スライドマスター」画面より色つきのガイド線を消してから変換してください

冊子のデータ製作について

- ・ページ数は表紙も含めた数になります
- ・データは1Pごとでも 見開きでも ご入稿頂けます
- ※見開きの場合はページ順どおりにご作成ください
- ・白紙のページがある場合は コメント欄にご指示ください

CODEに関わる若者たち

CODE未来基金とは？

CODE未来基金は、災害救援を主たる目的とするNGO(以下「災害NGO」)で働きたいという意志のある若者をサポートするための基金です。「災害NGOで働きたい」、「災害NGOで社会を変えていきたい」という想いを持っていても、将来や生活を考えると職業として選ぶことは難しいという若者がたくさんいます。また「NGOというものがあることは知っているが、触れる機会がない」、「NGOに必要なスキルが何かわからない」と、一歩を踏み出せない若者もいます。そのような若者に対して、「CODE未来基金」ではNGOで働くという生き方を安心して選べる環境を作っていきます。

CODEは、阪神・淡路大震災から20年という節目を迎えた2015年に、次世代を担う若者たちを支えるために「CODE未来基金」を設立しました。設立から8年が経ち、これまでにCODE未来基金に関わった若者たちに、現在の状況や、CODEで学んだこと、想いについてのアンケートに答えてもらいました。お忙しい中、アンケートに快くお引き受けいただいた皆様、ありがとうございます。(山村) (*掲載は、CODEに関わった年代順)

高橋 大希(27) 株式会社KIRI(愛媛県)

① CODEに関わるようになったきっかけは？

吉椿さんがNHK「プロフェッショナル～仕事の流儀～」に出演しているのを視聴して関心を持ち、Facebookメッセージで連絡を取らせていただき、吉椿さんとカフェでお茶をさせていただいたことがきっかけです。

② これまで関わったCODEの活動は？

ネパールフィールドワーク、2017年10月～2018年3月CODE未来基金インターンシッププログラム、第4回日中NGO・ボランティア研修交流事業(2018年3月)など他イベント参加多数

③ CODEに関わって学んだことは？

一つの物事/課題に向き合う際に、その物事/課題をしっかりと深く長い時間をかけて考えること、また多角的にその物事/課題を見ることの重要性を学びました。

・憶測で物事を判断せず、現地で自分の感じたこと考えたこと、また当事者の方の言ったことから考えるなど、インターネットや調べて出てくる数字だけで知った気になってしまっていた自分に物事への向き合い方を学ばせていただきました。

④ CODEと出会って自分の人生にどんな影響があった？

・半年間のインターンと海外に2度行かせていただき、それらの経験があったの今であり、CODEでの経験があったかなかったかでは人生は大きく変わっていたと思います。

・世の中で起こっている災害や出来事をただテレビの向こう側で起こっている他人事として捉えるのではなく、世界の様々な現場と関わらせていただいたことで、そういった世界での出来事を自分の世界の延長線上にある出来事として捉えられるようになったことは人生において非常に大きな意味があると思っています。

趣味は
野球

CODE未来基金の目的は？

- ① 災害救援NGOで働くことをめざす若者をサポートすることで、次世代のNGOを担う人材を広げます。
- ② 若者がNGOに関心を持つ機会を広げ、NGOを若者が実現したいことを叶える場としていきます。
- ③ 若いNGOスタッフが日々の生活や将来を設計し、安心して働くことが出来るような環境をつくります。
- ④ 就職活動の際にNGOで働くことが選択肢の一つになるような社会をめざします。

立部 知保里(35) 一般財団法人アジア防災センター

① CODEに関わるようになったきっかけは？

大学院の先生のご紹介で。

② これまで関わったCODEの活動は？

未来基金インターンとして半年間、スタッフとして2年半事務局業務を担当。その間フィリピン台風コランダ支援やコロナ禍の支援などに従事。現在はHP更新、CODE Letter発行、イベントでのお手伝いなど。

③ CODEに関わって学んだことは？

地域を知ること。市民であること。被災者の声を聴くこと。声を上げること。どれも本当に「学んだ」と言える域に達しているのかわからないけれど、その域に近づこうとみんなであーでもないこーでもない議論し続けるということも含めて、「学んだ」こと。

④ CODEと出会って自分の人生にどんな影響があった？

「人」を見るようになった。関わらないタイプだったが、社会に憤るようになった。「どうい立場から社会を見るか」が変わった。

趣味は
音楽鑑賞

山内 優(23) 関西大学 政策創造学部 政策学科 4年生

① CODEに関わるようになったきっかけは？

高校の時の授業に、吉椿さんが来られてお話しを聞き、通年型のインターンシップで関わるようになりました。

② これまで関わったCODEの活動は？

中国四川フィールドワーク、食と国際協力、国内研修、20周年事業、丹波農業フィールドワーク

③ CODEに関わって学んだことは？

足元を知ることの大切さを学びました。遠い未来や、この先うまく行か不安になったりして目の前のことが見えなくなり、やらなければならないことや優先順位が考えられなくなる事がありますが、CODEでの活動やCODEで出会う人から話を聞く事で足元を知ることの大切さを学びました。

④ CODEと出会って自分の人生にどんな影響があった？

自分の視野が広がりました。イベントの参加やインターンを通じて、ただ学校に通うだけでは出会えなかったような方や同じ年代の人からいろんな経験をしてきた大人の方に出会えて、たくさん話を聞き、時には無力さを感じることもあったがいろんな生き方があって感銘を受けました。大学に通う予定はなかったがCODEと関わるようになってから、もう少し色々なことを学生として学びたいと思い、進学を決意したことは自分の人生にとってとても大きな影響だと思っています。

趣味は
ギター



- 水色の枠線.....切れてはいけない要素(文字やロゴ等)をいれる範囲
- ピンクの枠線...仕上りのサイズ
- みどりの枠線...フチなし印刷にする場合、背景を伸ばす範囲

★★★ PDFに変換して入稿される場合 ★★★
「表示」>「スライドマスター」画面より色つきのガイド線を消してから変換してください

冊子のデータ製作について

- ・ページ数は表紙も含めた数になります
- ・データは1Pごとでも見開きでもご入稿頂けます
- ※見開きの場合はページ順どおりにご作成ください
- ・白紙のページがある場合はコメント欄にご指示ください

特集



趣味は
ドライブと
映画鑑賞

柳瀬 彩花(23) 地域おこし協力隊(宮城県気仙沼市)

- ① CODEに関わるようになったきっかけは？
 阪神の震災で被災した祖父母から話を聴いて育ち、関心をもつようになりました。高校生の時にかかわったボランティアで偶然CODEの元インターン生に出会い、CODEの取り組みに関心を持ちました。
- ② これまで関わったCODEの活動は？
 日中NGO・ボランティア研修交流事業、丹波農業フィールドワーク、CODE活動報告会
 講演会：2020/12/20「コロナとこれからの市民社会に向けて」、2021/02/28「多文化共生から始まる防災・減災と復興、コロナと防災」、2021/03/06「震災からときを経て～コロナ禍の今、私たちにできること～」、2022/03/24「今こそ、一人ひとりがアクションを」などその他多数参加
- ③ CODEに関わって学んだことは？
 被災地や海外というフィルターをかけるのではなく、どこに居たとしても同じ「地域」、「目の前の人」として関わりを見つめ直すことやその姿勢を学びました。また、それはどの活動であってもCODEが掲げている「最後のひとりまで」に込められた思いを体感する出来事があったり、大切にしたい軸として心に残ったりしているからだと思います！
- ④ CODEと出会って自分の人生にどんな影響があった？
 CODEと出会ってから活動だけでなく、人としてどうありたいか、何を大事にしていきたいかを考えてきました。震災を経験していない私にも何かできる事はあるのかと思いつつ災害ボランティアでしんどさを抱えていました。そんな時、CODEの中国・四川で出会った被災者の方は「笑顔で明るく生きて」と手を握り締めてくれて、国や言葉を超えた「痛みを共有」に心が温まりました。また、コロナ禍で吉椿さんから、「海外の被災地にも地域があるように、身近にも地域があるはず。今は足元を見つめ直してみようか。」と言われ、自分の地域の人たちを気にかけることは私にもできるかもしれないと気づきました。その言葉をきっかけに、現在も地域活動に励んでいます。また、農業フィールドワークでも有機農家の皆さんにも「自然界にはどのような協力関係があるか健康は何でできているか」という生き方に対する深い問いをいただきました。これまでの活動を通して見つめ直したことや大切にしたいと感じた姿勢は、拠点が神戸から気仙沼に移った今も、地域に関わる上で重要な軸となっています。

原田 梨央(24) 長崎大学大学院 熱帯医学・グローバルヘルス研究科 国際健康開発コース 2年生

- ① CODEに関わるようになったきっかけは？
 もともと国際協力に関心があり、学部時代には教育系の学生国際協力団体に所属していました。アルバイト先が同じだった方に誘われてCODEのイベントに参加したのがきっかけです。
- ② これまで関わったCODEの活動は？
 2019年にCODEの活動地であるフィリピンへ1度、中国へ2度訪れました。同じく2019年の4月から2年半の間、大学の授業がない日や長期休みを利用して、学生ボランティアとして、主にSNSでの広報活動や寄付者名簿に関する会員管理等の事務作業のお手伝いをしました。
- ③ CODEに関わって学んだことは？
 現場を知ることの大切さ、自分の目で見て考えることの大切さを学びました。CODEを通じてフィリピンや中国に行くまでは、国際協力に対する漠然としたイメージしか持っていませんでしたが、CODEの支援先の村の方々との交流を通じて、国際協力が究極的には「人と人との繋がり」であることを体感することができました。また、そのような経験は、日本での自分の生き方を見直すきっかけにもなりました。
- ④ CODEと出会って自分の人生にどんな影響があった？
 大学入学時には、医薬品の観点からグローバルヘルスの分野に関わりたと思っていましたが、CODEと出会って、現地の人たちとより近い、現場で活躍できる人材になりたいと思うようになりました。その夢を実現するために、専門分野を薬学から公衆衛生に変えて大学院に進学し、8か月間ケニアへフィールドワークに行きました。また卒業後は、JICA青年海外協力隊として西アフリカのベナンに行く予定です。

趣味は
読書

山村 太一(22) CODE海外災害援助市民センター

- ① CODEに関わるようになったきっかけは？
 高校生、大学生の時に吉椿さんの授業を受け、デイキャンプに参加したのがきっかけです。
- ② これまで関わったCODEの活動は？
 農業フィールドワーク、20周年事業、ウクライナ避難民支援、トルコ・シリア地震支援など
- ③ CODEに関わって学んだことは？
 CODEの理念の大切さを学びました。また、なぜそれを理念に置くのか、被災者の方やボランティアの方、その他様々な方と関わることによって理解してくる部分が多かったです。CODEの理念は、今後もCODEを離れたとしても常に自分の生き方として刻んでおきたいと思っています。
- ④ CODEと出会って自分の人生にどんな影響があった？
 今まで、「高校に行って大学に入って就職して定年まで働いて」という人生を自分も歩むのだと思っていたが、CODEに関わるようになって、様々な生き方や考え方、人種の人がいることを知り、もっと自分がしたいことを自由にしたいのだと知ることができました。

趣味は
自転車
漫画



趣味は
筋トレと
食べること

黒瀬 天孝(20) 大阪大学法学部国際公共政策学科 3年生

- ① CODEに関わるようになったきっかけは？
 元々国際協力やボランティア活動に興味があり、賛助会員の祖母から渡されたCODEレターを読む中で、この団体から一度お話を伺いたいと思ったことです。
- ② これまで関わったCODEの活動は？
 奥丹波でのフィールドワーク、子ども食堂への食材配達と学習支援、難民寺子屋、ワンワールドフェスティバルfor Youthでの出演
- ③ CODEに関わって学んだことは？
 ・コロナで国外に行けなくとも、国内の活動に焦点を当てることで地元にある子ども食堂とその利用者の日常生活を知ることができました。
 ・農業を通じた食糧への見方の変化、規格外製品がいかに恣意的に作られているか。専門のない自分がボランティア活動でできることは、とにかく相手の話を聞き、相手について知ろうとすること。
- ④ CODEと出会って自分の人生にどんな影響があった？
 ・地元について市民の立場から勉強する機会がこれまで非常に少なかったこと。特に対話を通して問題を考える経験が足りなかったこと。
 ・日本の中でも教育や食糧、難民など国際問題の一端を十分学ぶことが出来る。外だけを見ず国内、特に自分の地元に目を向けることの大切さ。



趣味は、
旅行
散歩
水彩

島村 優希(22) 大阪大学人間科学部人間科学科 4年生

- ① CODEに関わるようになったきっかけは？
 吉椿さんの授業を聞いて、MOTTAINAIやさい便に同行させてもらったのがきっかけです。
- ② これまで関わったCODEの活動は？
 ウクライナ支援(特に子守ボランティア)、トルコ・シリア地震現地派遣同行、CODE LETTER作成、Webページ翻訳、SNS発信等
- ③ CODEに関わって学んだことは？
 公的な支援や大きい枠組みからは取りこぼされるニーズが沢山あり、一人一人に寄り添った活動をする中で、それが見えてくることです。
- ④ CODEと出会って自分の人生にどんな影響があった？
 CODEに関わる多くの若者や大人に出会ったことで、自分の人生の選択肢が大きく増えたと思います。また、これからどんな道に進んだとしても、「最後のひとりまで」ということは大切にしたいと感じています。



尾崎豊
が大好き

植田 隆誠(23) 関西学院大学総合政策学部国際政策学科 4年生

- ① CODEに関わるようになったきっかけは？
 大学で災害ボランティアに出会い、その活動の中でCODEを知りました。大学を休学中していたこともあり、その期間中にインターンをさせて頂くことになりました。
- ② これまで関わったCODEの活動は？
 ウクライナ避難民支援、トルコ・シリア地震 第一次現地派遣など
- ③ CODEに関わって学んだことは？
 つながりや支え合いの大切さです。CODEに関わり、沢山の方々とお話しをさせて頂く機会に恵まれました。実は見えないところで多くの人に支えられてきて今の自分が出来ているんだなということを感じています。「最後の一人まで」という言葉を聞いて、まずは目の前の人を大切にしようと思えるようになりました。
- ④ CODEと出会って自分の人生にどんな影響があった？
 CODEに集まる方々の様々な生き方を見て、自分も自分らしく楽しく生きようと思えるようになった。国際協力の仕事に就くことを自分の将来の選択肢として考えられるようになりました。

- 水色の枠線.....切れてはいけない要素(文字やロゴ等)をいれる範囲
- ピンクの枠線...仕上りのサイズ
- みどりの枠線...フチなし印刷にする場合、背景を伸ばす範囲

★★★PDFに変換して入稿される場合★★★
 「表示」>「スライドマスター」画面より色つきのガイド線を消してから変換してください

冊子のデータ製作について

- ・ページ数は表紙も含めた数になります
- ・データは1Pごとでも見開きでもご入稿頂けます
- ※見開きの場合はページ順どおりにご作成ください
- ・白紙のページがある場合はコメント欄にご指示ください

2022年度事業報告 & 2023年度事業計画

(文責: 吉椿雅道)

海外災害地への援助活動事業

【アフガニスタン救援】

「2022年度報告と2023年度計画」

2021年8月にイスラム主義勢力タリバンがアフガニスタン全土を制圧し、「アフガニスタン・イスラム首長国」の樹立を宣言しました。タリバン復権による圧政を恐れた12万人以上の人たちは国外へと退避しました。

CODEは政変後、カウンターパートFさんの家族の国外退避をサポートしてきましたが、未だ実現には至っていません。他方で神戸市内に退避してきたSさんへは、「MOTTAINAIやさい便」を提供しています。2022年度は上記に加え、CODE寺子屋「難民について考える」を開催し、NGO実務者や弁護士を講師にウクライナ避難民とアフガニスタンやミャンマーの難民について考える場を提供してきました。2023年も引き続きアフガニスタン状況を注視し、レーズン輸入再開も検討していきます。

【ウクライナ・ロシア支援】

「2022年度報告と2023年度計画」

2022年2月24日のロシア軍によるウクライナ侵襲から1年以上を経て、今もなお兵庫県内には100名以上の避難者が暮らしています。CODEは、2022年5月から「MOTTAINAIやさい便」として約40名の避難者に新鮮な野菜を届けています。このやさい便を機にウクライナの人たちの暮らしに寄り添い、声を聴く中で、通訳ボランティア、引っ越し、自転車・防寒具・家具の提供を行ってきました。また、交流会や稲刈り体験、スケッチ展、農業ボランティアなども他団体とコラボしてきました。また12月からは学生ボランティア主導で子守りボランティアも行ってきました。

2023年度もやさい便事業を継続しつつ、ウクライナの避難者の声を大切に学生ボランティアたちと共に活動を展開していきます。(詳細はプロジェクトレポートより)

【中国・四川大地震】

「2022年度報告と2023年度計画」

2008年の四川大地震後、被災地の農村で老年活動センターの建設などの支援を行ってきました。また、2015年からは現地のNGOと連携して「日中NGOボランティア研修交流事業」を実施し、日本の学生たち約30名が学ぶ場を提供してきました。

2020年の新型コロナウイルス感染症の支援としても、武漢の市民ボランティアを遠隔で支援しました。2022年度も現地への渡航はできませんでしたが、日中の若者同士で「オンラインスタディツアー」や中国のNGO関係者向けのオンライン研修なども実施しました。

2023年度は、中国のコロナ禍の状況を鑑み、現地に渡航し、震災直後から支援してきた光明村の状況調査や学生の研修などを再開します。

【トルコ・シリア地震支援】

「2022年度報告と2023年度計画」

2023年2月6日にトルコ南部を震源としたM7.8の地震が発生しました。CODEは、4日後にスタッフ2名をトルコの被災地に派遣し、現地のNGOを通じて物資提供や被災者へのヒアリング、KOBEの子どもたちのメッセージを届けるなどの活動を行ってきました。2023年度も、第3次派遣ではトルコのNGO ACEVを通じて「子どもと家族のケアセンター」の建設と運営の状況を調査し、今後も引き続き同センターの子どもたちとその家族を支える活動をサポートしていきます。

また、他方でこれまで現地派遣に同行した学生たちが中心でトルコのユースボランティアとの交流も企画しており、災害多発国である両国で若者たちがボランティアにいて学び合う機会を提供していきます。

(詳細はプロジェクトレポートより)

国内外のネットワーク構築事業

2022年度も例年通り、コープこうべ、関西NGO協議会、近畿ろうきんなどと災害救援事業や寺子屋セミナーなどで連携を深めてきました。また、トルコ・シリア地震を機にワカモノデカラや1.17希望の灯りなどの若者の団体とも連携することができました。

教育機関に関しては、例年講義をしている神戸学院大学や親和大学、兵庫県立大学、関西国際大学、神戸大学、舞子高校、葦合高校、神戸工科大学などに加

え、桃山学院高校、灘中学、金沢大学、愛媛大学、藍那小学校などでも講義・講演を行いました。

海外では、これまでの災害救援事業を通じてつながっているインドネシア、中国、フィリピン、ネパール、バングラデシュなどのNGOに加え、2023年度はトルコのNGOとの連携強化を図っていきます。

プロジェクトレポート

ウクライナ避難民支援

2022年2月24日にロシア軍がウクライナに進行してから、1年半を経た現在、2488名のウクライナ人が日本に避難しています。(8/23出入国管理庁)そのうち兵庫県には104名の方々が祖国に残した家族を想いながら不安な日々を送っています。CODEは、以下の支援活動を継続しています。



【ウクライナ避難民の方と行ったいちご狩り】

【MOTTAINAIやさい便】

CODEは、2022年5月から「MOTTAINAIやさい便」と称して規格外品だが新鮮な有機野菜を安価で買い取り、ウクライナの避難民の方々に提供してきました。当初1世帯から始まりましたが、現在は21世帯44名(うち2世帯3名は一時帰国中)に野菜を提供しています。野菜を届ける中でウクライナの方々の日本での暮らしを知り、一人ひとりの関係性を構築してきました。



【子守りボランティア】

2022年12月からウクライナ避難民で母子家庭の母親たちのストレス軽減のために学生スタッフが中心となり「子守りボランティア」を開始しました。これまでに約20名の高校生、大学生が参加し、のべ60名以上のボランティアが参加し、3家族の子守りを約50回行ってきました。



【農業ボランティア】

一人のウクライナ避難民の声から、農業体験が始まりました。元CODE理事の村上忠孝さんの西区の菜園や須磨区のとびまつ中学菜園でウクライナ避難民Lさんが、学生ボランティアと共に日本の農業を体験し、Lさんの生きがいの創出につながっています。



人材育成事業

【CODE未来基金】

2022年度は、ウクライナ避難民支援やトルコ・シリア地震などを機にCODE未来基金にかかわる若者たちも増えました。また、CODEが法人として再スタートを切った20周年の年に、今の若者たちの社会に対する思いや阪神・淡路大震災からCODEが大切にしてきた事などをテーマに議論を重ねてきました。2023年度も引きつづき

次世代を担う若者たちと共に議論と実践を続けていきます。そして、2023年度から山村太一(2023年3月神戸学院大学卒業)を新たにスタッフとして迎え、CODE未来基金をより一層盛り上げていきます。

- 水色の枠線.....切れてはいけない要素(文字やロゴ等)をいれる範囲
- ピンクの枠線...仕上りのサイズ
- みどりの枠線...フチなし印刷にする場合、背景を伸ばす範囲

★★★ PDFに変換して入稿される場合 ★★★
「表示」>「スライドマスター」画面より色つきのガイド線を消してから変換してください

冊子のデータ製作について

- ・ページ数は表紙も含めた数になります
- ・データは1Pごとでも見開きでもご入稿頂けます
- ※見開きの場合はページ順どおりにご作成ください
- ・白紙のページがある場合はコメント欄にご指示ください

プロジェクトレポート

トルコ・シリア大地震

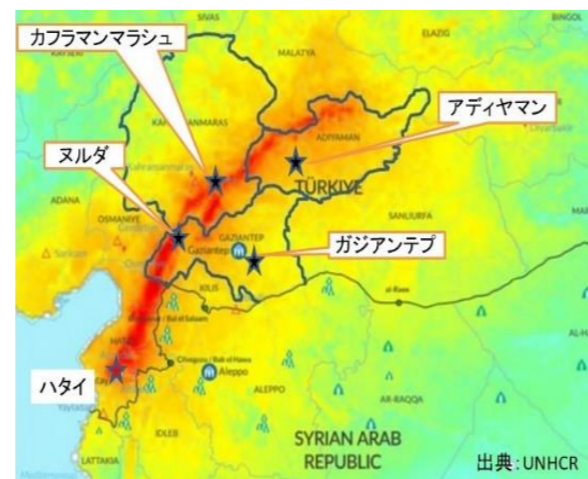


CODEが、トルコのNGO.ACEVと共に建設・運営している「子どもと家族のケアセンター」

(文責:吉椿雅道)

トルコ・シリア地震の概要

日時:2023年2月6日(月)4:17(日本時間10:17)
 震源:トルコ東南部ガジアンテプ県ヌルダ郡東26km
 規模:M7.9 深さ17.9km
 余震:2/6 13:24(日本時間19:24)にM7.5
 2/21 20時すぎにM6.3の余震が発生
 *これまでに1万3000回以上の余震
 被災地:「トルコ」ハタイ県、ガジアンテプ県、カフラマンマラシュ県、
 アディヤマン県、マラティア県、ディヤルバクル県など11県。
 「シリア」イドリブ県など10県43地区。
 被害:死者5万9259人以上、負傷者12万1704人以上(8月末時点)
 (トルコ5万783人、シリア8476人)
 被災者約2300万人(WHO)
 倒壊家屋 約34万5000棟(トルコ国内)
 1万9600人が被災地から避難(2/14)



これまでのCODEの現地派遣

派遣回	期間	スタッフ	活動地域	活動内容
第1次派遣	2023年2月10日(金)～18日(土)	植田隆誠(学生インターン) 吉椿雅道(事務局長)	ガジアンテップ、ヌルダ、カフラマンマラシュ、アディヤマン	物資提供、被災者へのヒアリング、被害調査など
第2次派遣	2023年3月21日(火)～3月31日(金)	島村優希(学生インターン) 吉椿雅道(事務局長)	ガジアンテップ(エナテペ村)、ヌルダ(サクチャゴズ)、カフラマンマラシュ、アディヤマン	物資提供、被災者へのヒアリング、被害調査、防災授業、現地NGOの情報共有会議に参加、神戸からのメッセージ(歌、手紙など)の提供など

第3次派遣の概要

日程:2023年6月18日(日)～26日(月)*現地滞在6日間
 現地派遣者:吉椿雅道(CODE事務局長) 山村太一(CODEスタッフ)
 現地協力者:藤本憲志さん(ネブシエヒル大学日本語学科講師)
 メハメットさん(Active Participants Associationメンバー)
 アジャルさん(チャナッカレ大学3年生:通訳&ドライバー)
 実施内容:被災地の現状調査、今後の復興支援に向けた仮設住宅の訪問とヒアリング、物資の配布(子ども用の文具、絵本、まけないぞう、など)の提供、現地NGO(ACEV)の「子どもと家族のケアセンター」の訪問とヒアリング、被災者へのヒアリング など

左から
 吉椿、アジャル
 さん(通訳)
 山村、藤本さん



左:メハメットさん

右:ハサンさん(NGO ACEVディレクター)



←アディヤマンの「子どもと家族のケアセンター」



↑ハタイ



↑アディヤマンの仮設住宅村

【被災者の声】

- ・「暑くて寝てられない」(ハタイ県のテント生活する被災者たち)
- ・「テントには誰もいないわ」(ヌルダ、アディヤマンの被災者たち)
- ・「この事を伝えて!」(未だテント生活する被災者たち)
- ・「政府は見せたくないのよ。状態が悪いから」(被災者の女性)
- ・「普通の生活に早く戻りたい」(仮設に住む被災者の女性)
- ・「女性は働くチャンスが少ないの」(社会教育センター職員)
- ・「私たちも子どもを持つ親だし、やりがいを感じてこの仕事に応募したの」(ヌルダのケアセンターの先生)

【若者の視点】

最も印象に残っているのは、ハタイを訪れたことです。ハタイは、これまで行ったヌルダやアディヤマン、カフラマンマラシュとは全然違い、まだ多くのテントが立ち並んでおり、そこでまさに「取り残された人々」を目の当たりにしました。これまで視察した地域の仮設住宅では、「政府は良くしてくれている」と言う声をよく耳にしました。しかし、ここハタイでは、みんなが口を揃えて「政府は何もしてくれない」と言うのです。このギャップに何をどう返していいのかわかりませんでした。このテント村で私がしたことは、連絡先を交換して、話を聴いただけです。ただ、それだけです。それでも、「Teşekkür ederim(ありがとう)」と言っても、耳が痛くなりました。「ありがとう」という言葉で、辛くなることも初めて知りました。今の私には、少しでもこの現状をたくさんの人に知ってもらうために、こうして発信することしかできません。私には、何ができるだろうか。本当にここから考え続けなければならないと危機感を感じました。(山村)

【課題】

- ・ コンテナ入居者(狭い、暑い、退屈)、在宅避難者(余震で怖い、物資なし)
- ・ テント生活者(暑い、行き場がない)
- ・ 家賃の高騰と賃貸住宅の不足
- ・ 「コンテナ仮設村」では、コミュニティが形成されていない。
- ・ 学校の再建は未だなく、倒壊した学校の生徒は他校に行って授業。
- ・ 復興全体が「上げ膳据え膳」になっている。
- ・ トップダウンのスピード復興ゆえに、住民参加の声、想いが見えない。
- ・ 被災地間の支援格差・・・政治的、宗教的な背景
- ・ 画一的な支援(物資配布、食事、就職斡旋、子どものケアなど)で、障がい者や高齢者などのSpecific(特有、個別)の対応があまり見られない。

冊子のデータ製作について

- ・ ページ数は表紙も含めた数になります
- ・ データは1Pごとでも見開きでもご入稿頂けます
- ※見開きの場合はページ順どおりにご作成ください
- ・ 白紙のページがある場合はコメント欄にご指示ください

- 水色の枠線.....切れてはいけない要素(文字やロゴ等)をいれる範囲
- ピンクの枠線...仕上りのサイズ
- みどりの枠線...フチなし印刷にする場合、背景を伸ばす範囲

★★★ PDFに変換して入稿される場合 ★★★
 「表示」>「スライドマスター」画面より色つきのガイド線を消してから変換してください

イベントレポート

トルコ・シリア地震支援 トルコ・日本ユースボランティア交流

2023年2月6日に発生したトルコ・シリア地震は、甚大な被害をもたらし、死者は両国合わせて59000人以上となりました。CODEは地震直後から3度スタッフを被災地に派遣しました。

現地でお会いしたトルコの学生ボランティアたちと、日本の若者が交流することによって、災害多発国である両国で互いに災害やボランティアなどについて学び合えるのではないかと考え、トルコの若者と日本の若者によるボランティア交流会を3度に渡り開催しました。



↑アディヤマンでお会いした学生ボランティア(右:第二次派遣
左:第一次派遣)

開催概要

第一回「トルコ・日本ユースボランティア勉強会 ～トルコと日本の若者をつなぐ～」

日時: 2023年4月15日(土曜日) 16:00～20:00

開催: zoomによるオンライン開催

参加者: 日本人 16人 トルコ人 7人

第二回「被災地とつながろう! ～①トルコ・シリア地震ユース勉強会～」

日時: 2023年6月9日(金曜日) 18:00～20:00

開催: zoomによるオンライン開催

参加者: 日本人のみで開催12人

第三回「被災地とつながろう! ～②トルコ・シリア地震ユース勉強会～」

日時: 2023年6月11日(日曜日) 20:30～22:00

開催: zoomによるオンライン開催

参加者: 日本人 13人 トルコ人 2人

主催: CODE海外災害援助市民センター
CODE未来基金



第一回「トルコ・日本ユースボランティア勉強会 ～トルコと日本の若者をつなぐ～」

トルコのアディヤマンでお会いした若者ボランティアたちとのオンライン交流会を開催しました。

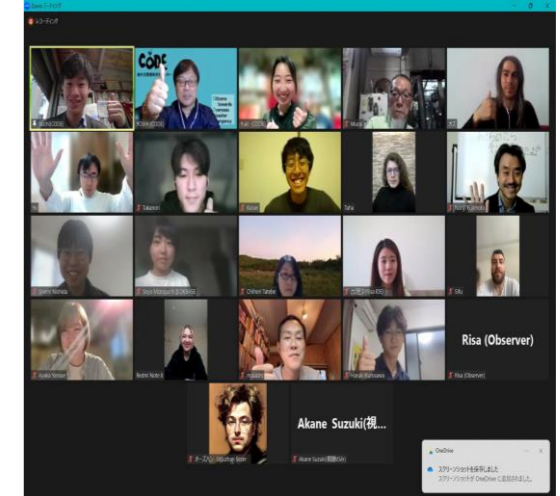
日本側は日本の災害について、トルコ側からはトルコの災害の歴史や今回の地震や活動内容について紹介した後、お互いにNGOやボランティアについて意見を交換しました。

トルコのHさんは実際に子どもの衣服やおもちゃを提供するボランティアの様子を紹介されたり、Tさんは自身がこれから所属する大学の学生への働きかけを行うことを教えてくれたりなど、被災地で今なお活発に活動されていることがよく分かりました。ディスカッションではボランティアが被災地に行くことの意義や、中長期的な支援をこれからどのように展開するかなど、他にも様々な意見が飛び交い、一人ひとりが今後のトルコの復興に向けて、どうしていけばいいのか考えさせられる機会となりました。

参加者の感想

・メディアでの報道が地震後からあっという間に減ってしまい、現地の人々がどんな風に過ごしているのかを知る良い機会だった。自分がトルコへ行って何が出来るわけでもないが、まずはこういった若者が現地で必死に支援をしていることを少しでも多くの知人に認識してもらえるよう、情報の共有に努めたいと思った。(20代 男性)

・学びがいっぱいでした! ありがとうございました。ボランティアの意義について、ウクライナの子守ボランティアに参加したことで、今日のこのイベントにも参加することができ、いろいろな人の話を聞いて視野を広げることができました。参加することによってつながる縁があるということが素晴らしいと改めて感じました。(20代 女性)



↑第一回 交流会の様子

第二回、第三回「被災地とつながろう」～トルコ・シリア地震ユース勉強会～

第二回では、第一回の交流会の反省も踏まえて、まず日本側でこれまでの日本の災害ボランティアについてや日本の災害の歴史について、学生がボランティア活動に従事する意義などを考え、次回の交流会でスムーズに交流できるようトルコ・シリア地震の基礎知識について学ぶ回となりました。

第三回では、グループディスカッションなどを交えながら日本側とトルコ側に分かれて、トルコ・シリア地震について私たちが、できることは何か考えました。また、高校生や大学生などの若者がボランティア活動をする意義について意見交換をし、お互いの学びが深まることができました。

参加者の感想(一部抜粋)

・今日のイベントに参加して、一人ひとりの声を聞こうとすること、更に自分達が聞いたことやそれによって感じたことを素直に他者に伝えようとするのが大事であり、伝えることをやめないようにしようと思いました。また、メディアばかりチェックしていると、かなり限られた場面だけを見ることになるので、報道されていることばかりを鵜呑みにするのではなく、現地でのボランティアを通して、偏見を持たずに自分の目で見たいこと、更に感じたことを、自分の言葉で他者に伝え、そして他者と想いを共有し合って、その意見交換、学び合いを次の行動にどのように活かしていくのかということが、大事なのではないかと感じました。また、ボランティアをする中で常に好奇心を持って問いを立てることが大事だという話が出ましたが、これはボランティアに限った話ではなく、研究においても、仕事においても、生きていく上でも大事な気がしました。(20代女性)

・国や地域によって、文化などの差があり、現地に行ってみないとわからないことがあるというのが印象的でした。

・ボランティアについては全然知識がない状態で参加しましたが、勉強になりました。ありがとうございます。

・支援物資で古着が捨てられていたり、水不足で困っていることを知った。特にここ最近のトルコの干ばつについて知りたかったので、被災地でもかなり影響が出ていることが分かった。

・災害が起きたのはとても悲しいことですが、このように若者たちの草の根の交流が生まれるきっかけになったことはとても喜ばしいことだと考えています。禍を転じて福と為すようになりますように

・通訳を挟んでいるためコミュニケーションの量や時間に少しラグが出ていた。英語なら少し話せたので、自分自身、参加者本人と直接話そうとすれば良かったかもしれない。報道でほとんどトルコのことを見かけなくなったので、被災から数ヶ月経った現地の様子を少しでも知ることができて良かった。なんとか時間を見つけてもっと交流会に参加したり、できれば現地へ行って自分の目で一度見てみたい。

・日本の学生の災害ボランティアの話も紹介してくれたことで、日本とトルコの文化の違いなども共有できてよかった。オンラインで気軽に交流できてよいと思う一方で、お話を聞いていると、直接お会いして、一つひとつじっくり突っ込んでお聞きしてみたいなという気持ちにもなる。

～全体を通して～

三回の「トルコ・日本ユースボランティア勉強会」を開催し、通底して学んだのは、たとえトルコに行くことができなくても、ボランティア経験がなくても、必ずできることはあり、一人一人が何が出来るか考え共有することによって、ソフト面の復興につながっていくのだと感じました。イベントを開催し、日本の若者たちに少しでも「トルコに私は何が出来るのか」考えるきっかけとなったと思います。

ご参加いただいた皆様、ご協力いただいた皆様、共に考える貴重な機会をありがとうございました。(山村太一)

冊子のデータ製作について

- ・ページ数は表紙も含めた数になります
- ・データは1Pごとでも見開きでもご入稿頂けます
- ※見開きの場合はページ順どおりにご作成ください
- ・白紙のページがある場合はコメント欄にご指示ください

- 水色の枠線.....切れてはいけない要素(文字やロゴ等)をいれる範囲
- ピンクの枠線...仕上りのサイズ
- みどりの枠線...フチなし印刷にする場合、背景を伸ばす範囲

★★★PDFに変換して入稿される場合★★★
「表示」>「スライドマスター」画面より色つきのガイド線を消してから変換してください

イベントレポート

CODE寺子屋セミナー特別編 緊急企画「被災地を知る～災害現場の実践を通して～」

CODEは、今後もトルコ・シリア地震の被災地で現地のNGOや若者ボランティアと連携しながら、復興支援を進めています。そのために、よりトルコ・シリア地震の被災地について学ぶためにCODEのこれまでの3度の派遣に同行いただいた藤本憲志さんに講師をしていただきました。トルコ・シリア地震の被災地のことだけでなく、阪神・淡路大震災、東日本大震災でのご経験をお話いただきました。

講演の内容は、「知っているようで意外と知らないトルコクイズ大会」から始まり、子どもから大人まで楽しくトルコの文化や宗教に触れることができました。また、以前、コープこうべに勤務されていた経験から当時の阪神・淡路大震災の様子もお話いただき、その時の経験が今のトルコ・シリア地震に活かされているのだと理解できました。トルコのことも日本のことでさえも、まだまだ知らないことだらけだと痛感しました。

一時帰国の夏休みの貴重な時間に、講演していただきありがとうございました。また、藤本さんとトルコでお会いできるのを楽しみにしております。ありがとうございました。(山村太一)

開催概要

「被災地を知る～災害現場の実践を通して～」

日時：2023年7月28日(金) 18:00～20:00

講師：藤本憲志さん

(トルコ国立ネヴセヒル・ハジュベクタシュ・ヴェリ大学に専任講師)

開催：対面(トルコ紅茶とトルコのお菓子付き)

参加者：16人

主催：CODE海外災害援助市民センター、CODE未来基金



↑左、中央、学生ボランティア 右：藤本憲志さん

トルコ・シリア地震 第三次派遣報告会

→
ア
デ
イ
ヤ
マ
ン
の
仮
設
住
宅
村



開催概要

「トルコ・シリア地震 第三次派遣報告会」

日時：2023年7月11日(火) 19:00～20:30

報告者：吉椿雅道(CODE事務局長) 山村太一(CODEスタッフ)

開催：オンライン

参加者：75人

主催：CODE海外災害援助市民センター

第三次派遣報告会では、事務局長の吉椿雅道とスタッフの山村太一が第三次派遣(6月18日～6月26日)において調査を行った被災地の現状やCODEのプロジェクトについてお伝えしました。前半は、山村がトルコ・シリア地震の概要や、第三次派遣の概要について、そして「若者から見た被災地」について。後半は、吉椿が、被災地の様子や被災者一人ひとりの声を紹介し、今後CODEが目指す復興やプロジェクト、課題点などについて話しました。日本では、ほとんどトルコ・シリア地震のことは、メディアで取り上げられなくなりました。そのような中で75人の方が参加してくださり、少しでもトルコ・シリア地震のことに興味を寄せてもらうことはできたのではないかと考えています。(山村太一)

スタッフ活動記録

4/9	多文化プラットフォーム「被災地のいまから考える」で講演(吉椿)
4/14	MBSラジオ「ネットワーク1.17」に出演(吉椿)
4/15	トルコ・シリア地震支援第2次派遣報告会を開催(島村さん、吉椿)
4/15	トルコ・日本ユースボランティア交流会を開催(島村さん、植田さん、山村、村井理事、吉椿)
4/18	NPOリエラ(日田市)ウクライナ避難民食事に参加(イローナさん、オクサーナさん、松永さん、河井さん、頼政さん、村井理事、吉椿)
4/22	北陸学院大学で「トルコ・シリア地震」支援報告会(植田さん、島村さん、吉椿)
4/23	ワンネススクールで「トルコ・シリア地震」支援報告会(植田さん、島村さん、吉椿)
4/24	親和女子大学「国際ボランティア論」第3回「ボランティアについて」で講義(吉椿)
4/27	関西NGO協議会理事会に出席(吉椿)
4/28	CODE理事会
5/1	連合大阪「第94回大阪地方メーデー」で「トルコ・シリア」ブース出展と講演(山村、吉椿)
5/7	みろく農園(網干)のイチゴ狩りにウクライナ避難者と参加(ウクライナ避難者7名、山本健一さん、山村、島村さん、立部さん、吉椿)
5/8	子守りボランティア勉強会を開催(島村さん、植田さん、樋上さん、那須さん、有田さん、村井理事、山村、吉椿)
5/12-13	レスキューストックヤード「トルコ・シリア地震」支援報告会で報告
5/14	関西NGO協議会総会に出席(吉椿、山村、植田さん、島村さん)
5/15	日本ホスピス・在宅ケア研究会「トルコ・シリア地震」支援報告会で報告(吉椿)
5/17-18	未来基金キャンプ(植田さん、島村さん、山村、吉椿)
5/19	ラジオ関西「ボランティアのいま～震災28年～」の収録(吉椿)
5/25	近畿ろうきん相生支店で講演(吉椿)
5/27-28	カミングKOBでトルコ・シリア地震のパネル展示(植田さん、間野さん、山村)(被災地NGO協働センターとコラボ)
6/4	CODE理事会・総会
6/5	被災地NGO協働センター寺子屋「いのちとくらしを守るための講座」「海外の支え合いから地域の大切さを学ぶ」で講演(吉椿)
6/7	近畿ろうきん笑顔プラス贈呈式に出席(吉椿)
6/9	「トルコ・シリア地震」学生勉強会を開催(島村さん、植田さん、山村、吉椿)
6/10	防災教育学会で「トルコ・シリア地震」の講演(吉椿)
6/11	第2回トルコ日本ユースボランティア交流会を開催(島村さん、植田さん、村井理事、山村、吉椿)
6/12	藍那小学校で「トルコ・シリア地震」講演(吉椿)
6/12-13	震災がつなぐ全国ネットワーク「被災者支援の在り方を考える震つな検討会」に出席(吉椿)
6/14	コープこうべ総代会に出席(吉椿)
6/18-25	トルコ第3次現地派遣(山村、吉椿)
6/20	「シブチ前駐日大使のお話を聴く会」を開催(島村さん、植田さん、那須さん)
6/26	親和女子大学国際ボランティア論第12回「NGOとは」で講義(吉椿)
6/28	大阪大学人間科学部「共生の理論と実践」で講義(吉椿)
6/28	ウクライナ憲法記念日イベントのサポート(山村、島村さん、植田さん)
7/1	神戸学院大学社会貢献学入門第14回「CODEの行う社会貢献」で講義(吉椿)
7/3	親和女子大学国際ボランティア論第13回「国際協力と若者」で講義
7/7	国際協同組合デー兵庫県記念大会(兵庫県民会館)でCODEのトルコ・シリア地震支援のパネルを展示(吉椿)
7/10	親和女子大学国際ボランティア論第14回「SDGsと災害」で講義
7/11	トルコ・シリア地震第三次派遣報告会を開催(吉椿、山村)
7/15	兵庫県立大学「防災の国際協力」で講義(吉椿)
7/20	ソロチミスト日本財団年次贈呈式に出席(山村)
7/24	親和女子大学国際ボランティア論第15回「異文化理解と援助」で講義
7/28	CODE寺子屋セミナー特別編「被災地を知る～災害現場の実践を通して～」(藤本憲志さん)を開催
7/27	CODE20周年事業のフラッシュアップ(吉椿、山村、植田さん、島村さん、山口さん)
7/31	ワンネススクール(石川)で講演(吉椿)
7/31	筑波大学大学院生のトルコ地震支援のヒアリング(吉椿)
8/3	とちぎコミュニティ基金で講演(吉椿)
8/4	NHK「ぐるっと関西おひるまえ」に出演(島村さん、山村、吉椿)
8/9	Family&Co.「夏休みわくわくワークショップ」にて「うちわプロジェクト」を実施(山村、樋上さん)
8/13	青少年活動サポートプラザにて「うちわプロジェクト」を実施(島村さん)
8/20	NPO法人 a littleの「8月の西宮ごはんとグズドライブ」にて「うちわプロジェクト」の実施(山村、植田さん)
8/20	兵庫駅南公園こどもフェスタ実行委員会「夏のこどもフェスタ」にブース出展と「うちわプロジェクト」の実施(山村、植田さん、黒瀬さん)
8/24	ウクライナ独立記念日イベントのサポート(山村)
8/26	生活クラブ生活協同組合都市生活で講演(近藤さん、吉椿)
8/27	Comm caféにて「うちわプロジェクト」の実施(島村さん、那須さん)
8/31	アユス仏教国際協力ネットワーク関西交流会で講演(吉椿)

※その他、週一で、とびまつ中学菜園(須磨)での畑作業

- 水色の枠線.....切れてはいけない要素(文字やロゴ等)をいれる範囲
- ピンクの枠線...仕上りのサイズ
- みどりの枠線...フチなし印刷にする場合、背景を伸ばす範囲

★★★PDFに変換して入稿される場合★★★
 「表示」>「スライドマスター」画面より色つきのガイド線を消してから変換してください

冊子のデータ製作について

- ・ページ数は表紙も含めた数になります
- ・データは1Pごとでも見開きでもご入稿頂けます
- ※見開きの場合はページ順どおりにご作成ください
- ・白紙のページがある場合はコメント欄にご指示ください

会員・寄付者 ご芳名(五十音順、敬称略)

(2023年4月1日～2023年8月31日)

【会費】

相川康子、青木正美、阿部好一、安藤尚一、アントニオ・マルゴット、石井知代、石東直子、石原凌河、市丸仁一、伊東伸子、岩尾興一、上田耕蔵、鶴飼愛子、鶴飼卓、宇都彰浩、江口節、大槻輝美、岡田重益、岡田雅幸、小田尚子、片岡幸彦、金子久子、鎌倉千俊、河知秀晃、川中大輔、北浦和志、草地とし子、栗田啓子、小竹貫介、小林アイ子、坂井健二、佐野禎夫・二階、塩谷誠、師玉健男、柴田康彦、鈴木有、芹田健太郎、空野仁志、高橋智子、竹尾祐子、竹代一洋、武田節子、田中一正、玉岡昇治、田村快光、旦保立子、鎮西貞子、永松寛喜、名越信次、西海恵都子、橋口文博、橋本京子、秦智、榛木恵子、半田裕子、飛田雄一、平山隆史、不破雅美、宮武光則、三輪行信、村田昌彦、本岡秀子、山崎清、山下由美子、山田千恵子、山本八州雄、湯井恵美子、柚原里香、吉永孝代、渡辺智佐子

【ご寄付】

個人

(ア行)

相川康子、浅倉修、阿部俊之、飯嶋朝子、飯塚桂子、市岡秀雄、市橋純子、市原キヨ子、伊藤幸子、今山朝枝、伊与田昌慶、岩井淑枝、鶴飼卓、宇田川規夫、内田博夫、江口節、岡田重益、岡田雅幸、小川健、小川秀代、奥山隆生、尾澤良平、小田嶋景子、小田尚子

(カ行)

折笠和子(サボテン班)、笠置りか、加藤ちえ、川中大輔、北浦和志、北波忠雄、木下美根子、木下愛子、草地とし子、栗田啓子、慶児純子、五嶋和子、小竹貫介、小林アイ子、小林正弘、米谷啓和

(サ行)

斉藤悦子、サイトウスズキ、佐藤敦子、佐藤杏香、佐野禎夫・二階、塩谷誠、茂見節子、師玉健男、杉澤純子、住野和子、桑田万里子、曾我部恵子

(タ行)

タカハシミノリ、高原幸輔・佳子、竹尾裕子、武田節子、竹田はるみ、田中圭子(純)、玉岡昇治、田村快光、津久井進、辻信一、椿佳代、都倉裕太

(ナ行)

中尾正嗣、中島悦子、中原喜代子、永松寛喜、仲村恵美子

会員・寄付者 ご芳名(五十音順、敬称略)

いつも応援してくださり、ありがとうございます!

(ハ行)

羽島新菜、坂東悦子、日向真紀子、平澤重子、平山隆史、福井武司、福田道子、藤本憲志、古谷園子、法化図典子

(マ行・ヤ行)

見上政子、水野明代、村山京子、室崎益輝、望月雅子、森永由香里、山内正子、山崎茜、山科満、山本正紀、山本博子、常味裕司、柚原里香、吉椿琴、吉永孝代、米田幸人、米田玲子

企業・団体

尼崎園田トルコシリア救援活動呼び掛け人の会、FMわいわい、NPO法人北神戸園ボランティアネット、NPO法人リエラ、大阪市仏教青年会 会計 小寺竜雄、神戸市サッカー協会 一北保五郎、学校法人近田幼稚園 育友会、CANADIAN ACADEMY、TOHOKU TEAM、アースデイ神戸実行委員会 代表者 東晃佑、神戸新聞厚生事業団、こうべ森の学校、コープこうべハート基金、佐用町国際交流協会、社会福祉法人名古屋市昭和区社会福祉協議会、社会福祉法人イエス団みどり野保育園、ショファイユの幼きイエズス修道会、新日本婦人の会中央支部、静岡県ボランティア協会、住みびらきの家ケレケレ、生活クラブ生活協同組合都市生活、清流の国ぎふ女性防災士会 会長 伊藤三枝子、NPO法人ふぉーらいふ・フリースクールForLife、中林和子、滝川コミュニティセンター、なごや防災ボランティアネットワーク昭和、なだっこプロジェクト実行委員会、認定NPO法人日本災害救援ボランティアネットワーク(NVNAD)、認定NPO法人WE21ジャパン厚木、兵庫県ふるさと納税ひょうごトルコ支援プロジェクト、毎日新聞大阪社会事業団、まちづくり工房井筒屋、みなとのもり公園、箕面市人権啓発推進協議会「わっと」、阪神医療生活協同組合、葺合高校すぎな会、フツウノアシタ、防災教育学会、ゆめ風基金、レスキューストックヤード、連合大阪

【その他(ウクライナ支援の野菜提供、トルコ・シリア地震支援「うちわプロジェクト」など】

ムラとマチの奥丹波、コープこうべみずほ協同農園、竹内由美、村上忠孝ファーム、の～ら、旭芳郎、とびまつ中学農園、河崎紀子、満田里美、NPO法人a little、認定NPO法人日本災害救援ボランティアネットワーク(NVNAD)、Family&Co、にしのみや遊び場つくろう会、公益財団法人箕面市国際交流協会、青少年活動サポートプラザ、国際現代、兵庫駅南公園こどもフェスタ実行委員会、コープこうべハート基金、ワンネススクール

その他、街頭募金活動等でも多くの方々からご協力頂いています。ご支援・ご協力誠にありがとうございます!



- 水色の枠線.....切れてはいけない要素(文字やロゴ等)をいれる範囲
- ピンクの枠線...仕上りのサイズ
- みどりの枠線...フチなし印刷にする場合、背景を伸ばす範囲

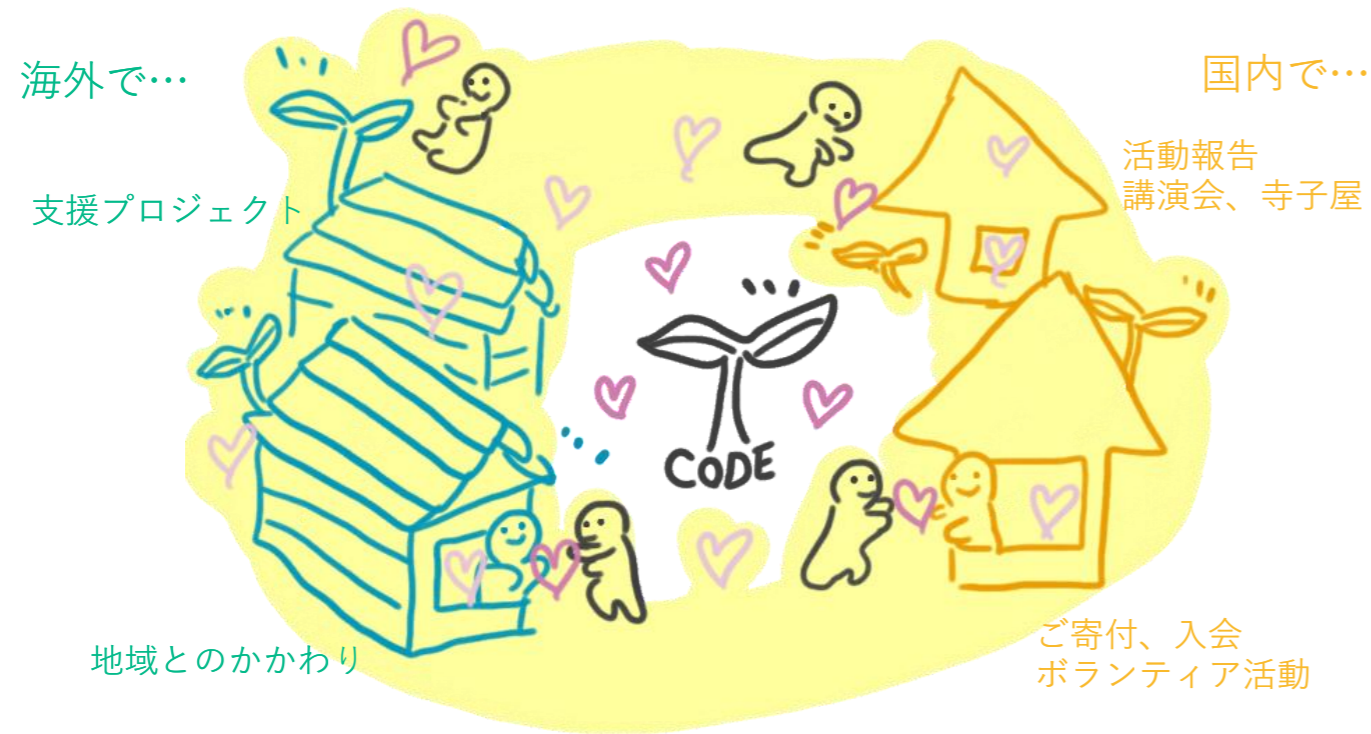
★★★ PDFに変換して入稿される場合 ★★★
「表示」>「スライドマスター」画面より色つきのガイド線を消してから変換してください

冊子のデータ製作について

- ・ページ数は表紙も含めた数になります
- ・データは1Pごとでも 見開きでも ご入稿頂けます
- ※見開きの場合はページ順どおりにご作成ください
- ・白紙のページがある場合は コメント欄にご指示ください

ご協力をお願い

みなさまからの応援があって、CODEは活動を継続できます。
お家から世界へ。CODEが支援のお気持ちを届けて、世界とあなたをつなぎます。



寄付して応援

活動を継続するためのご寄付です。
全体運営、特定の救援プロジェクトへのご寄付の指定も可能です。
25%を上限に管理運営費とさせていただきます。

ボランティアとして応援

事務所での作業や翻訳、自宅でも可能な作業などの
ボランティアを募集しています。
詳しくはCODE事務局までお問い合わせください！

知って・学んで応援

あなたの住んでいる地域で開催される講演会に
CODEスタッフを講師として派遣します。
テーマ・内容等、お気軽に事務局までご相談ください！

サポート会員になって応援

【正会員（総会での議決権あり）】

個人・学生 : 年会費 5,000円×1口以上
NPO/NGO : 年会費 5,000円×1口以上
企業・団体 : 年会費30,000円×1口以上

【賛助会員】

個人・学生 : 年会費 2,000円×1口以上
NPO/NGO : 年会費 2,000円×1口以上
企業・団体 : 年会費10,000円×1口以上

ともにCODEを創ってくださる方を
いつも募集しています

お振込み方法

■ ゆうちょ銀行
支店名：〇九九（ゼロキュウキュウ）
支店番号：099
口座番号：0330579

■ 近畿労働金庫
支店名：神戸支店
支店番号：642
口座番号：8881040（普通）
口座名義：CODE海外災害援助市民センター

【郵便振替】
加入者名：CODE
口座記号番号：00930-0-330579

【クレジットカード】
CODEのホームページより →
<https://code-jp.org/donation/>



※通信欄に用途をご明記ください。(例「ウクライナ」「賛助会員」)

発行元 (特活) CODE海外災害援助市民センター

〒652-0801 兵庫県神戸市兵庫区中道通2-1-10
TEL : 078-578-7744 FAX : 078-574-0702

E-mail : info@code-jp.org
HP : <https://www.code-jp.org/>



Facebook



Twitter



Instagram

- 水色の枠線.....切れてはいけない要素(文字やロゴ等)をいれる範囲
- ピンクの枠線...仕上りのサイズ
- みどりの枠線...フチなし印刷にする場合、背景を伸ばす範囲

★★★ PDFに変換して入稿される場合 ★★★
「表示」>「スライドマスター」画面より色つきのガイド線を消してから変換してください

冊子のデータ製作について

- ・ページ数は表紙も含めた数になります
- ・データは1Pごとでも見開きでもご入稿頂けます
- ※見開きの場合はページ順どおりにご作成ください
- ・白紙のページがある場合はコメント欄にご指示ください